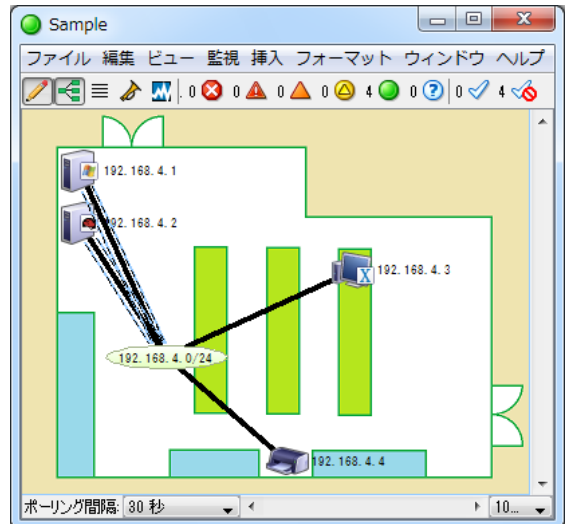
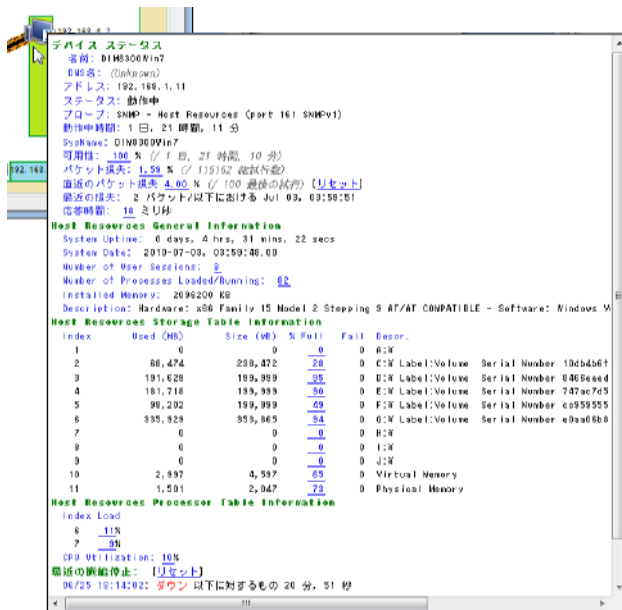


# InterMapper のおすすめポイント

## InterMapper は誰でも簡単に使えます。

### ●グラフィカルなマップで、ネットワークの状況を一目で把握

どこかで障害が起こったとき、テキストベースで一覧表表示されていても、それがどの機器なのかは直感的に把握しにくいものですが、InterMapper ではグラフィカル・マップを使ってネットワークが表現されるので、一目でその場所が分かります。



### ●詳しい状態を知りたいときは、マウスでサーバーを指定するだけ

サーバーなどのネットワーク機器の詳細な状態を知りたいときには、その危機のアイコンをマウスカーソルで指してボタンをプレスするだけでネットワークのトラフィック状況だけでなく、ディ

スク使用量やCPU使用率などのリソースの状態も簡単に知ることができます。

### ●危なくなったら自動的にお知らせ

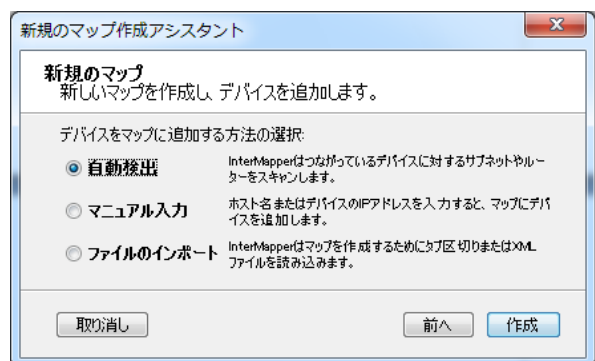
ネットワークトラフィックやディスク使用率などが指定した値を超えた時には、音やメールで管理者に知らせることができます。

## 管理に手間がかかりません。

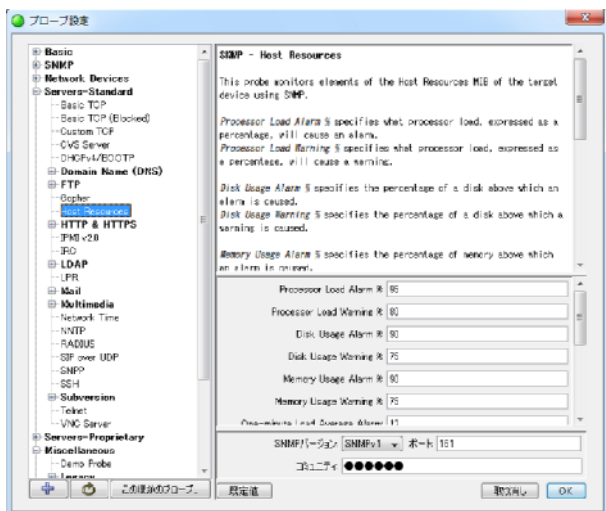
### ●IPの自動検出

マップの作成も自動化されています。

InterMapper をインストールした PC がつながっているネットワーク上のネットワーク機器のIPアドレスを自動的に検出して、マップを作成する機能をもっていますので、手間をかける必要はありません。また、IPアドレスやネットワーク名を指定する方法も用意されています。後から、マップに機器を追加したり、削除したりするのも、マウスで簡単に指定できます。



## ●簡単なリソース選択

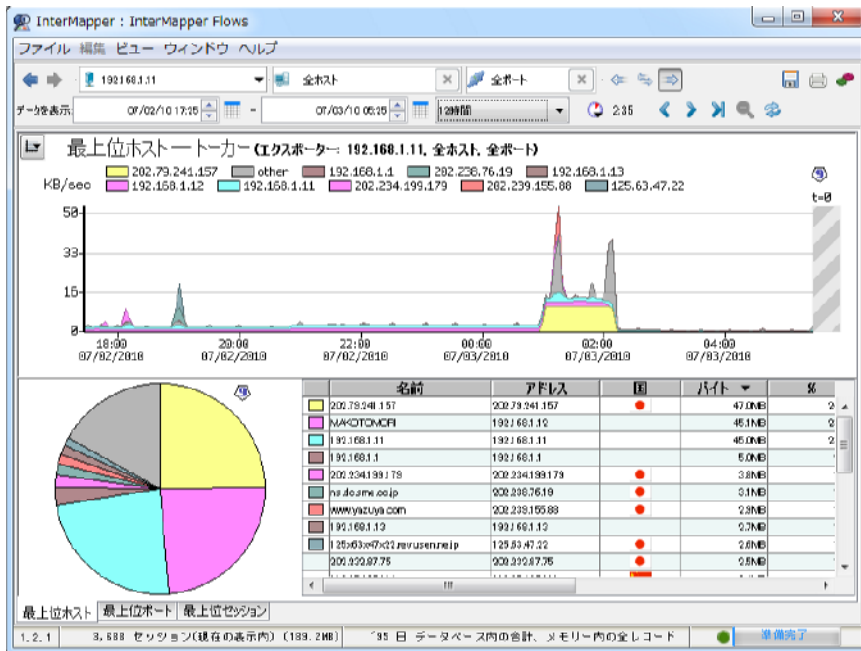


InterMapper はいろいろなネットワークプロトコルを使って監視することができます。HTTP や FTP プロトコルを使えば、これらのサーバーが適切な応答速度を維持して稼働しているかどうかをチェックします。SNMP を使えば、ネットワークトラフィックを詳細に調べられるだけでなく、PC のリソースであるディスク使用量や CPU 使用率もチェックできます。しかもその設定もツリー状の選択肢から選ぶだけで設定できます。警告を出す値はあらかじめデフォルト値が設定されて

いるのでそのまま使用することもできますし、独自に設定しなおすことも簡単です。また、Windows サーバーでは WMI API を使って詳細なリソースを監視することもできます。

## NetFlow、sFlow などのプロトコルをサポート 対応スイッチ/ルータの情報をビジュアルに表示

シスコなどの主要なネットワーク機器メーカーはネットワークのトラフィック情報などを自動的に収集する機能をスイッチやルータに搭載しています。それらの情報は NetFlow、



sFlow というプロトコルでアクセスすると収集することができます。InterMapper は NetFlowをはじめ、sFlow、jFlow、cFlow というプロトコルをサポートしており、幅広くスイッチやルータから情報を収集することができます。